

# 8月報(2025年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp



## 【教皇レオ十四世メッセージ】



⊕「人類家族全体のため、武装しない、武装を解かせる平和を追求する決意を新たにしよう」教皇、広島・長崎原爆投下80周年に向けてメッセージ(2025.8.5 バチカン放送)

広島と長崎への原爆投下から80年を前に教皇レオ14世が5日、広島教区の白浜満司教にメッセージを寄せられた。

同日は、広島のエリザベト音楽大学セシリアホールで、被爆者団体と日米韓の有志枢機卿・司教によって「被爆80年・核廃絶のための協働をめざして」をテーマに平和集会が開かれ、続けて、世界平和記念聖堂で平和を祈願するミサが捧げられ、教皇の白浜司教あてのメッセージが、駐日教皇大使のフランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教から伝えられた。

広島司教アレキシオ白浜満様

広島と長崎への原爆投下80年を記念して集まられたすべてのかたがたに心からご挨拶申し上げます。とくにわたしは、生存する被爆者のかたがたに敬意と愛情の思いを表明いたします。

彼らの喪失と苦しみの歴史は、より安全な世界を築き、平和の環境を推進するために、わたしたち皆への時宜を得た呼びかけです。

長い年月がたってなお、2つの都市は核兵器がもたらした深刻な恐怖をまざまざと思い起こさせ続けます。その街路、学校、家は、あの運命の1945年8月の目に見えるものも靈的なものも含めた傷跡を今もとどめています。この関連で、わたしは愛する前任者、教皇フランシスコがしばしば用いたことばを繰り返すように促されます。「戦争はつねに人類にとって敗北です」。

長崎の被爆を生き延びた永井隆博士はこう書いています。「『愛』の人は、すなわち『勇』の人であり、勇の人は武装しない」（『平和塔』中央出版社、1979年、9頁）。実際、真の平和は、勇気をもって武器を——とくに、筆舌に尽くしがたい大惨事を引き起こす力をもつ武器を降ろすことを要求します。核兵器は、わたしたちの共通の人間性を傷つけるとともに、被造界の尊厳をも裏切れます。わたしたちはこの被造界の調和を守るように招かれています。

世界的な緊張と紛争が激化する現代において、広島と長崎は「記憶の象徴」（教皇フランシスコ『アレキシオ白浜満広島司教への手紙（2023年5月19日）』）として立ち上がります。それは相互確証破壊に基づく安全保障の幻想を拒否するようにわたしたちを促します。むしろわたしたちは、正義と兄弟愛と共に善に根ざしたグローバルな倫理を築かなければなりません。

それゆえ、わたしは、この莊厳な記念日が全人類家族のための永続的な平和——「武器のない平和、武器を取り除く平和」（「最初の祝福（2025年5月8日）」）の追求を新たにすることへの国際社会への呼びかけとして役立つことを祈ります。

この日を記念するすべてのかたがたに神の豊かな祝福を心から祈ります。

バチカンにて 2025年7月14日 教皇レオ十四世

## 【2025年広島教区平和行事に参加して】

藤井 瞳子



8月5(日)『被爆80年核兵器廃絶のための協働をめざして』というテーマで被爆者団体と日米韓有志司教による平和集会がエリザベト音大セシリ亞ホールで行われました。

初めに、日本被団協のノーベル平和賞受賞のお祝いがあり、代表理事の金本氏に花束と白浜司教作詞『みんなで力あわせて』という曲のCDを贈呈、コーラスグループによる合唱があり、その詩と歌声が心に響くすばらしいものでした。

第2部では、シアトル・ワシントンDC、サンタフェの枢機卿、大司教、韓国の司教団が参加されました。教皇庁駐日大使も来席され、聖座の核兵器に関する考え方と核兵器廃絶に向けた継

続的な取り組み、努力、活動についてお話になりました。ローマ教皇庁では、広島の原爆投下以降代々の教皇が核兵器の非倫理性と抑止論の完全な否定を唱え続けてこられ、2017年には国連で、はじめて核兵器禁止条約(TPNW)の交渉会議で核兵器の完全禁止に賛成しました。

またサンタフェのウエスター大司教は、『平和の道具として模範とされた聖フランシスコの信仰の町のすぐ隣で』プルトニウムの開発が行われ、ニューメキシコ州に膨大なお金が投じられているにもかかわらず多くの貧困層がいる事から、サンタフェ大司教区では核兵器のない未来を提唱しその実現に向けた指針を示す特別な責任があると強く訴えられました。

その後、米韓日の有志司教団と被爆団体からの提言があり、韓国原爆被爆者対策委員会のみなが、高齢で歩行も困難ながら被団協代表山口さんが力強くお話になり長きにわたって身体的な痛み、苦しみ、差別や偏見に耐えてこられたことを思い改めて核の使用だけでなく持たせない事を強く訴えていかねばならないと感じました。

今もウクライナやガザで多くの命が失われ飢餓に苦しんでいる人達がたくさんおられます。一日も早く平和な日が来ることを祈らずにはいられません。



フォーラムの後大聖堂で平和の祈りが捧げられました。多くの人の祈りが神に届くよう最後に『希望の巡礼者』を歌いながら終わりました。

福山教会からは暁の星のバスをお借りし尾道教会の方と同行しましたが、事故も怪我もなく無事に帰ることができました。神に感謝！！

## 【被爆者団体と日米韓有志司教の平和集会】

～被爆 80 年 核廃絶のための協働をめざして～

伊藤 望

2025年8月5日エリザベト音楽大学セシリアホールにて午後1時から開催。第1部は白浜司教の歓迎の言葉から始まり、日本被団協ノーベル平和賞受賞を祝って菊池枢機卿が「希望を高く夢を現実に。みんなで力を合わせて被爆者の体験をしっかりと聞き力強く歩みたい」と挨拶され、続いてシアトル大司教区ポール・エティエン大司教が祝賀の言葉を述べられた。第2部は教皇庁駐日大使エスカランテ・モリーナ大司教からのメッセージ、米韓日有志司教団からの提言（米国マケロイ枢機卿、韓国 JUNG SHIN-CHUL、日 ガクタン・エドガル仙台司教、松浦悟郎名古屋司教）があり被爆者団体の提言（原田浩、望月みはる、権俊五、中谷悦子）があった。そして共同声明の発信となった。

この稿ではお一人お一人の言葉を伝えるわけにはいかないが極簡単に印象に残った言葉をお伝えしたい。原田浩元原爆資料館館長の言葉、「6歳の時広島駅で被爆。被爆体験はどんなに悲惨な状況であったか。約3mの爆弾で4000度の高熱、440mの爆風。決して核兵器を使ってはいけない。核抑止論には反対。フランシスコ教皇とも熱い握手をかわした。温かい手だった。日本被団協のノーベル賞受賞は多くの市民の思い協力によるものである」望月さんの言葉。「残念ながら世界には多くの紛争があり、先の参議院選挙で核兵器は安上がりの声に驚いた。またあなたが被爆者の子と知っていたら結婚しなかったとの声も聞いた。」権さんの言葉。「韓国人も2万から3万人被爆しており、日本人だけが被爆者ではない。核兵器の無残さに対し日本、韓国が声を大にして手を携えて核のない世界を実現していこう。」中谷さんの言葉「被爆2世の父は8月6日のことを話さなかった。現在9か国核保有国がありこれは現在のわたしたちの問題である」最後に被団協の金本弘さんがお礼の言葉を述べられた。「一言では言えない。80歳の今までしっかりと勉強したと思っていたがもっともっと知らせないといけない。それが使命。核兵器の問題は一人一人の問題。若い人たちが核のない世界にしていくことが大切。核抑止政策、これは核を使うということになりこれではいけない。その意味で戦後は終わっていない。核のない世界に向かって歩むのに今年は最大のチャンス」

現在の日本でも核武装すべきと考える人がだんだん増えており著名なエマニュエル・トッドも日本が核武装すべきと書いているがその中で核廃絶を訴えることが今日の緊急の課題であり、それは一人一人つまり自分の意識の問題であると肝に銘じた。私たちが意識すべきことは時には非現実的とみなされるかもしれないが日々の生活を通してイエス・キリストの平和実現に向けて歩を進めなければいけない。この度はアメリカからの巡礼団(若い人も含めた約30人前後)が参加し世界に向けた広がりを感じた。会場を世界平和記念聖堂に移しこれらの思いを菊池枢機卿司式の「被爆80年 平和祈願ミサ」を大勢の参加者(海外からも多かった)が捧げこの場を閉幕した。



## 【街頭募金の報告】

福祉部 野田 茂生

ガザの面積は、福山のそれが 518 km<sup>2</sup>に対して、365 km<sup>2</sup>。人口は、福山約 45 万人に対して、ガザは 214 万人。つまり、福山の 70%に過ぎない土地に 5 倍近い数の人々がひしめきあっているということだ。それも、ヨルダン川西岸地区と同様、高い壁で囲まれ、「天井の無い牢獄」と言われ、人々が逃げる場所はない。戦争が始まったのが 2023 年 10 月だから、もう 1 年と 10 ヶ月が経過する。始まりこそ、ガザを統治するハマスによるイスラエルへの攻撃があったものの、その後は、イスラエルのガザへの一方的な攻撃が続いている。死者は 5 万 9 千人に上ると、ガザ保健当局は公表しているが、瓦礫の下に埋もれて命を落とす人のことを考えると、実際には何人なのかわからない、とも聞く。

聖書の民が、ナチスによる大虐殺を経験したイスラエルの民が、なぜ？ と、何度も同じ疑念にとらわれるが、その答えを彼らが示してくれることはない。聖地巡礼と称して、イスラエルをのんびり訪ねることを、俺はしない。

怒りを持続させるのも、容易なことではないが、酷暑の中、憤然として駅前に立つ。日曜学校の子どもたちが頑張ってくれた。いくつか用意していたアピール文を、見事に、そして力強く読

んでくれた。それで募金が集まった。子どもたちの力は素晴らしいぞ！

45,222 円、カリタスジャパンに送金しました。協力して下さった方々ありがとうございました。



## 【私とのり子の物語】

佐藤 紀子

あんな人、いたっけな、あんな人、いなければよかったですのに…

人間なんて、風向きひとつで変わるとと思うと、どこか切なさを感じるけれど、心の中の側面には、その人の事が決して忘れないという面もあるので、心の中ひとつとっても、神さまは不可思議に人を造っていると思う。

それはある夏の日、家の庭に傷ついた鳥が迷いこんで来た。当然巣は無く、後は命がつきのを待つだけという痛々しい姿に、私の父は、あと残り少ない人生と解っている自身の姿を重ねたのだろう、その鳥にのり子と名前をつけ、明日は自然に戻り翼を拡げ大空に還ってゆける様心を碎いた。「のり子、水だよ」 そう言った父の後ろ姿を今でもよく覚えている。

父は田舎の人だから、本当の親鳥じゃないと子どもが育たないことくらい良く解っていた。なんとかしてやりたい、彼の切なる願いだった。「父さん、どうにもならんよね」と私は言った。その言葉を吐く時、どれ程辛く悲しく心が押しつぶされそうだったか、父さんは知っていたらうか。



人はどんな人にもこういう心の働き、慈愛にも似た慈悲の心を持っている。背後にはさよならしかなくとも、自分よりも小さな者に対する愛をもっている生き物だ。

人が人で居る事の確かな徵のように私には感じられる。そして、人は遠くのことには敏感で、優しい面を多分に持っているのに、近くの人には鈍感で、どこか無関心である。

聖書の中で創世記は、心の世界を描いていて、人の根源的な生命の有り様の序章にふれている。エヴァによって人は堕落をし善惡を知るようになる。そして自己矛盾と戦う人の姿が浮き彫りにされる。遠くのことより近くのこと目に向かはれる人でいたい。その方が隣人の可能性と裾野を広く見るという心の姿勢を大事にできると思う。

2度として会えなくても、その人のことが忘れられない、そんな関係性もあると日頃から思う。人間は考える葦である。知性もあるし理性もある。それだから今の発展もあったのだと思う。けれども、どちらともいえない情動というか本来持っている心の底力、力強さを感じる時が人にはあるものなのだと思う、それが、人の傷みに対する共感だったりする。

風のように生きて、あんな人居たっけな、でも忘れることが出来ない、そんな人になりたいですか？私は出会いました。少し前に教会の役割があつて家に着いた時のこと、父の日だったのでよく覚えています。きずついた雀が家の庭で鳴いている姿でした。助けて！と言っているよう直ぐに父のことを思い出しました。風の様だったそんな風に父のことを思えたのは、まだ最近です。交わしたやりとりが思い出され、私も同じくその子を生き長らえさせようと懸命でした。その次の次の日、鳴き声がやんできました。良いとか悪いとか、人間なんて浅はかだな、天に召されるのだから、と心の中で呟いて、父が他界をして時間が経って摂理というものの抗えなさに、ため息をつきました。「父さん、見ててくれたかなあ、のり子がもどって来たよ」天国にいる私の父は、小さな雀を私に届けてくれました。

その残像に涙がとまらず夏の盛り、父が好きだった季節は記録的な猛暑です。



## 【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】～ヨハネ福音書 12章～

『一粒の麦が地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ。』今日はこの大切な言葉を考えてみました。

聖書はこの後に續きます。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。

この箇所を読んで、わたしも一粒の麦となってみたいと本当に思いました。でも、生きているうちは自分が一粒の麦となっていることは、わからないのかも知れませんね。それはすべて神さまの導きです。

一粒の麦となり地に落ちて死ぬこと。簡単ではありません。誰でも、自分の命を愛したい。自

分の命を憎む人なんて考えられないと思います。

ただ、この世のすべては天国への道に繋がっています。でもどう生きるかが大切なのです。聖人たちの生涯だけではなく、この世界には信仰を持つ持たないに限らず、素晴らしい生涯を生きた人がたくさんおられます。その人も天国では一粒の麦となって、神さまのみ前に抱かれているのでしょうか。明日は一粒の麦となることを、考える1日になるといいですね。

平和を祈るこの8月、すべての亡くなられた尊い魂は、すべて一粒の麦となられ、神の身元に抱かれているのでしょうか。私たちが豊かな実を結ぶ者となるためには、今、どんな生き方をするかにかかっているのです。

## 【南相馬便り⑦9 2025年8月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子



小高区のまちづくりワークショップの3回目が行われました。2回目は都合が悪くて参加できなかったので、ついていくかどうか不安だったのですが、今まで出た意見を地図に落とし込んで、足りないところとか、付け加えたいところ、強調したいところなどの意見を出し合うことで、私にとっては、小高を知るために大変役立ちました。

小高は大変古くから栄えていたところらしく、縄文時代の住居跡（浦尻貝塚）があります。海を見晴らすことができる高台にあり、大規模な縄文時代（5700年前）の集落遺跡です。

また、大蛇伝説の大悲山には、日本の三大磨崖仏（栃木県の大谷磨崖仏、大分県の臼杵磨崖仏、福島県小高の大悲山磨崖仏）と言われる岩に掘った仏像群（薬師堂石仏、観音堂石仏、阿弥陀堂石仏）があります。平安時代前期のもので、見事な遺跡です。この地域の信仰心の深さを物語っているように思います。

南相馬便りにもよく登場する相馬藩の菩提寺、同慶寺も由緒あるお寺です。相馬家代々領地として治めてきた相双地域（福島県浜通り地方北部）には、相馬家一族の墓地が点在しています。それらのうち、明応5年（1496）に13代相馬盛胤が先祖の供養のため再興さ



同慶寺の相馬家墓地





せた同慶寺には 16 代から 27 代までの 27 人（当主とその一族）が葬られています。

また、本堂の奥には平安時代の仏像もあり、このお寺がいかに古くからあるかということがわかります。

この同慶寺で毎年 3.11 には、カトリックの私たちも参加して合同慰靈祭をします。

(3.11 慰靈祭で幸田司教が挨拶をしている)

まちづくりワークショップで、私は小高のこのような歴史的・文化的・宗教的な薫り高い風土をもっと強調してほしいと意見を出しました。ぜひ、来てみてください。

「見さ、来う南相馬（みさ、こう みなみそうま）見に来てください。みなみそうま。



### わたしの召命物語

教師だけにはなりたくないと言っていた私が、その後 17 年間も福山暁の星女子中学・高等学校の先生をすることになります。

本当にたくさんの経験をさせていただきました。先生方から、そして教え子である生徒たちからも、私の人間としての成熟を助けていただいたご恩は決して忘れることができません。忍耐力も養われました。何よりも人を愛する心は、中学生・高校生を相手にする時、要求される能力です。私はこの人間として一番大切な能力が成長していなかつたと気づかされました。それは以前書いたように PTSD を発症した時です。子供のころから父がいないから、母を困らせてはいけないという気持ちから、甘えること、愛されることにブレーキがかかって、愛することに成長していなかつたのです。人は愛された分だけ愛することができる。母は十分愛していくくれたのですが、自分にブレーキがかかっているから、受け取ることができていなかつたのだと思います。

生徒たちはそのような私に容赦なく愛情を要求してきます。それにふさわしく応えられない自分が情けなくて、自分を立て直す時をいただきました。5 年間、専任を外していただいて非常勤で小学校・中学校・高等学校すべての年齢の子どもたちと関わらせていただきました。

苦しい 5 年間でしたが、神様は、私に、父なる神のいつくしみと深い愛情を注いで、内面から湧き上がるような、温かい血が通う体験をさせてくださいました。そしてもう一度、今度は私の方からお願ひして、専任教員としてカムバックさせていただきました。特に両親がそろって、深い愛情を注がれながら、それに気づかないで横道にそれてしまう子どもたちに、心をかけて関わるようになりました。生徒指導部長としての任をいただいた時には、特に心を込めて、問題を抱えている生徒に接して、神様の恵みを願いながら、関わるよう努めました。そしてその生徒と周りの

友達や保護者の方のために、必要な神様の恵みを祈りました。

本当に恵みいっぱいの教員生活を送らせていただきました。

神様のなさり方は、本当に人知を超えたもので、このような人生を送ろうとは想像だにしていませんでした。感謝々々です。でもその後の展開はもっと驚くことが起こります。



(このシクラメンの鉢植えは、小高工房の男性職員の方が、種から育てて、2枚葉の時に修道院に下さって、見事に花を咲かせました。私はシクラメンが種から育てられるものだと知りませんでした。球根で増やすものだとばかり思っていました。

季節外れですが、うれしくて写真を撮っていたので載せました。人生もこのようですね！)

## 【8月・9月の行事予定】

8 月		9 月	
5(火)	平和行事	1(月)	すべてのいのちを守るための月間
6(水)	主の変容		十字架称賛
8(金)	福山空襲追悼ミサ	14(日)	敬老会
10(日)～ 12(火)	練成会		ミカエル金神父様靈名のお祝
15(金)	聖母の被昇天	15(月)	広島教区の日

## 【編集後記】



今回、私も広島平和行事に参加してきました。沢山の司教団の参加のお陰なのか、世界平和記念聖堂にコロナ前の活気が溢れていきました。

国を越え人種を越えて平和を願い、一緒にミサに与り共に神に祈る。この小さな空間がひとつの地球であり平和の象徴のようにも思いました。これが全世界のあちこちで起こればどんなに幸せなことか…

戦争によって多くの命が犠牲となり、家族がバラバラとなって飢えや苦しみ、孤独から解放されるには、ひとつの家庭、ひとつの小教区、ひとつの団体など小さな集まりが平和を保ち、拡げていく繋がりをもった時に平和が実現するように思いました。 (小さな声より)